

## 緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 2014年 2月 17日

### 緩和ケア普及啓発活動についての報告

<b>実施団体</b>	
日本緩和医療学会	
<b>企画名</b>	
「緩和ケア普及啓発事業 地域イベント関連企画 in 東海」 ～がんと診断された時からの緩和ケア～	
<b>事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、チラシの送付 62件 (東海4県の県担当課、東海4県の都道府県がん診療連携拠点病院、東海4県の地域診療拠点病院、東海4県の緩和ケア病棟のある病院、東海4県の医師会)</li> <li>・チラシの配布 (日本がん看護学会学術集会にて)</li> </ul>	
<b>当日の実施内容について</b>	
日時(期間)	2014年2月15日(土) 13:30~17:00
実施場所	KUWAYAMA 8階大会議室 8A (名古屋市)
参加人数	89名
<b>具体的な実施内容：</b> 本地区では、「がんと診断された時から始める緩和ケア」をテーマとし、第一部「早期からの緩和ケア～私の実践～」、第二部「事例を通じて明日から出来ること」と二部構成で緩和ケアを始める医師を中心に医療者を対象として企画致しました。以下がプログラムとなります。 <b>■オープニング</b> 13時30分～13時40分 開会挨拶：オレンジバルーンプロジェクトとは 塩川 満 (緩和ケア普及啓発WPG 員、聖隷浜松病院薬剤部) <b>■第1部 発題：「早期からの緩和ケア～私の実践～」</b> 13時40分～15時10分 司会：川村和美 (シッパヘルスクアファーマシー東日本・名古屋市立大学院医学研究科) 『早期からの緩和ケアに関する知見の整理』 森田達也 (聖隷三方原病院 緩和支援治療科) 『緩和ケア医として』 村井美代 (藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座) 『治療医として』 下山理史 (愛知県がんセンター中央病院緩和ケア科) 『看護師がどうケアしているか』 酒井幸子 (聖霊病院 がん看護専門看護師)	

『薬剤師がどう服薬支援しているか』

隅田美紀（中津川市民病院薬剤部 緩和薬物療法認定薬剤師）

※各講演にフリーディスカッションを交えながら進行します。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～休憩 15 時10 分～15 時20 分～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

■第2 部 臨床トレーニング 『事例を通じて明日から出来ること』

15 時20 分～16 時50 分 司会：東口高志（藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座）

川村和美（シップヘルスケアファーマシー東日本・名古屋市立大学院医学研究科）

事例1：『オピオイドを初めて処方するときの留意点』

下山理史（愛知県がんセンター中央病院緩和ケア科）

事例2：『疼痛がコントロールできなくなってきたときにどうするか』

坂本宣弘（名古屋市立大学病院緩和ケア部）

事例3：『せん妄の出た患者さんの対応』

長島 渉（春日井市民病院メンタルヘルス科）

事例4：『在宅で疼痛コントロールをするコツ』

姜 琪鎬（みどり訪問クリニック）

事例5：『アカシジア発現の初期症状』

内藤 宏（藤田保健衛生大学医学部精神神経科学）

※各事例にフリーディスカッションを交えながら進行します。

■クロージング

16 時50 分～17 時00 分 閉会挨拶：本企画総括

東口高志（藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座）

効果について（アンケートの結果など）

本企画は、2 部で『事例を通じて明日から出来ること』を目的に、5 事例を出したので、すぐに臨床に応用できる内容であったと思います。また、テキストを配布したので、記憶だけではなく、記録に残り、臨床に持ち帰り、役立つ研修会であったと思います。

その他報告

※公式ホームページ（緩和ケア.net）への掲載について

（掲載してもよい ・ 掲載しないでほしい）

●ポスター、チラシなどを作成した場合添付してください

●当日の様子（当日配布資料、会場、イベント実施時の写真など）を添付してください

●当日の動画を web にあげてもよろしければ、データを送付ください

